令和７年県議会　１２月定例会

農　林　水　産　委　員　会

農 林 水 産 部 長 説 明 要 旨

農 林 水 産 部

令和7年 12 月定例会　農林水産委員会

農林水産部長説明要旨

12 月 16 日（火）10 時～
第4委員会室

おはようございます。農林水産部長の川尾でございます。

委員の皆様方には、日頃から農林水産行政の推進にあたり、格別のご理解とご指導を賜り、厚く御礼を申し上げます。

それでは、議案等の説明に先立ちまして、農林水産部における主な取組等について、ご説明を申し上げます。座って説明をさせていただきます。

(世界農業遺産)

まず、平成 27 年に認定された世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」については、10 月 17 日に 10 周年記念式典が開催され、地域の関係者をはじめ、県内外から約 300 名の方々の参加がありました。委員の皆様方には、ご出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

また、世界農業遺産「有田･下津地域の石積み階段園みかんシステム」については、10 月 31 日にイタリア・ローマ市にある国際連合食糧農業機関（FAO）本部において認定証授与式が開催され、本県から有田・下津地域世界農業遺産推進協議会 森田会長をはじめ６名が出席し、認定証を受け取りました。

今後も、400 年以上前から先人が築き上げてきた「うめ産業」および「みかん産業」を未来へ継承するため、生産振興や販売促進、情報発信など地域と一体となった取組を展開し、ブランド力の向上や関係人口の増加等につなげてまいります。

(スマート農業の推進)

次に、スマート農業の推進については、10 月 25 日に紀の川市において、JA と共催で自走式草刈機や運搬車、農業用ドローンの実演・展示会を開催し、61 名の参加がありました。

引き続き、本県農業の省力化や収益性向上のため、スマート農業の推進に取り組んでまいります。

（農林水産物の販売促進）

次に、農林水産物の販売促進については、国内では「大阪・関西万博」において、9 月 29 日から 10 月 5 日まで開催された関西 WEEK にブース出展し、クイズラリーやオリジナル漫画等を通じて、世界農業遺産をはじめ和歌山が誇る果樹産地の歴史や文化とともに県産農林水産物を PR しました。7 日間で延べ 29,366 名の方々に来場いただき、関西全体の食の魅力を広く国内外に発信することができました。

海外では、イギリスで県産梅酒プロモーション、中国で県産酒類プロモーションを実施するとともに、台湾の高級百貨店において、加工食品の「和歌山フェア」を開催しました。

今後も、県内生産者や事業者の国内外に向けた販路開拓・販売促進に取り組んでまいります。

（主要果実の生産販売状況）

次に、主要果実の 12 月 12 日現在の系統扱いの販売状況について、かきは病害虫の発生も少なく、順調に生育したため、出荷量は前年同期比 124％の 24,282 トン、市場単価は前年同期比 89％の 1 キログラム当たり 327 円となっており、過去 5 年の最終平均単価を上回っております。

また、本年の温州みかんは裏年であるものの、現在の出荷量は前年同期比 108％の 30,285 トンで、糖酸のバランスが良く、おいしく

仕上がっていることから、昨年と同様に市場評価も高く、市場単価は前年同期比92％の１キログラム当たり332円と過去５年の最終平均単価を上回っております。

今後もJA等関係機関と連携しながら、高品質果実の安定生産を推進し、高単価販売を目指してまいります。

(クビアカツヤカミキリ対策)

次に、クビアカツヤカミキリについては、今月10日に新たに印南町の２か所のうめ園地において被害樹が確認され、これで県内では17市町に被害が拡大しました。

県ではこれまで、被害樹の伐採や薬剤による一斉防除に対し支援を行うとともに、早期発見・早期駆除を目的に発生調査やメディアを通じた県民への啓発を行ってきたところです。

さらに、本年は被害が確認されていないうめ主産地の生産者等を対象に、先月、被害園地での現地研修を実施しました。

今後も、県民への啓発や生産者に対する技術指導等について、被害の拡大防止に向け危機感を持って取り組んでまいります。

(鳥獣害対策)

次に、鳥獣害対策については、本年度もニホンジカの夜間銃猟を県内の３市町で９月から順次実施しているほか、捕獲技術の向上を目的として、狩猟の初心者を対象とした各種研修会を開催しています。

今後も、農作物被害の軽減を図るため、捕獲とともに防護柵の設置支援や狩猟者の確保・育成など、総合的な鳥獣害対策に取り組んでまいります。

（家畜伝染病の対応）

次に、高病原性鳥インフルエンザについては、本日、兵庫県姫路

市で陽性が確認され、国内養鶏場における発生は 7 か所となりました。本県では、9 月末までに全養鶏場に対して家畜保健衛生所による飼養衛生状況の確認指導を完了しており、引き続き監視強化に万全を期してまいります。

また、特定家畜伝染病が発生した際の防疫作業について、複数農場における同時発生等に対応できる体制の構築と併せて県職員の負担を軽減するため、10 月 14 日に殺処分作業の実績がある民間事業者との協定を締結しました。

今後も、家畜伝染病発生時に備え、万全の防疫体制の構築に努めてまいります。

（和牛の消費拡大対策）

次に、和牛の消費拡大については、9 月 6 日から先月末まで県産ブランド和牛を味わいながら取組店舗をスタンプラリーで巡る「わかやま MEAT UP フェア」を県内 71 店舗で開催し、県産和牛の取扱店舗拡大と消費促進を図りました。

参加者からは「県産和牛が味わえる新たなお店に巡り会えた」、「県産和牛を使ったいろんな料理が楽しめた」など、好評を得たところです。

今後も、県産和牛の生産から流通に至る各段階での施策を総合的に展開し、生産者の経営支援に努めてまいります。

（ジビエの振興）

次に、ジビエの振興については、今月 1 日から来年 2 月 28 日まで、15 回目となる「わかやまジビエフェスタ」を開催しており、県内 88 店舗の飲食店、ホテル等でジビエ料理をご堪能いただけます。

今後も、「わかやまジビエ」の消費拡大に向けた情報発信や販路拡大などの取組を進めてまいります。

（農業の担い手の確保）

次に、農業の担い手確保については、先月 29 日に和歌山市内において就農相談会を開催しました。これまで県内で 2 回、大阪と東京で 5 回の計 7 回開催し、県や市町村等へ 282 件の相談を受けたところです。

今後も、就農支援情報の発信や相談会の開催など、就農希望者の呼び込みに努めてまいります。

（紀州材の需要拡大）

次に、紀州材の需要拡大については、10 月 4 日から 2 日間、川崎市で開催された「武蔵小杉駅前優しい木のひろば」に紀州材製品を展示し PR するとともに、10 月 25 日には千葉県で開催された「大紀州材展」への出展を支援し、紀州材の魅力を発信しました。

今後も、県内外における紀州材の需要拡大に取り組んでまいります。

（林業の担い手の確保）

次に、林業の担い手確保については、10 月 4 日に大阪市内において、仕事、住まい、暮らしに関する「わかやま林業就業相談会」を開催し、45 件の相談を受けたところです。

今後も、積極的に担い手の確保に努めてまいります。

（企業の森）

次に、「企業の森」については、10 月 28 日に日本労働組合総連合会和歌山県連合会と日高川町での保全活動について調印式を行い、これにより県内の活動箇所は 119 か所になりました。

引き続き、多様な主体による森林環境保全活動を推進してまいります。

（第 49 回全国育樹祭）

次に、第 49 回全国育樹祭については、来年 11 月 7 日に田辺市の新庄総合公園にて「お手入れ行事」を、8 日に白浜町の白浜会館にて「式典行事」を開催することとなりました。

また、先月 29 日には、開催 1 年前のキックオフイベントとして、林業や教育関係者など約 200 名参加のもと「国民参加の森林（もり）づくりシンポジウム」を開催しました。ご出席を賜りました委員の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

引き続き、大会機運を盛り上げ和歌山らしさが溢れる大会となるよう、万全の準備を進めてまいります。

（漁業の担い手の確保・育成）

次に、漁業の担い手確保・育成について、県では漁協と市町が一体となって実施する漁業研修等を支援しており、今年度は新たに支援対象とした雇用型漁業の親元研修 4 名を含む計 13 名に加え、昨年度からの研修生 1 名と合わせて、現在 6 市町で 14 名が研修に取り組んでおります。

引き続き、本県漁業の情報発信や新規就業に向けた支援を行い、担い手の確保・育成に努めてまいります。

（商業捕鯨の状況）

次に、商業捕鯨の状況について、3 月 23 日に太地漁港を出港した太地町漁業協同組合の捕鯨船が、北海道や青森沖などにおいてミンククジラ 29 頭、ツチクジラ 4 頭を捕獲し、10 月 1 日に帰港しました。

引き続き、商業捕鯨が継続・発展していくよう国に働きかけてまいります。

（漁業取締船「みさき」の就役披露式）

最後に、新たに建造しました漁業取締船「みさき」について、10月31日に和歌山セーリングセンターにおいて就役披露式を開催しました。ご出席を賜りました委員の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

引き続き、漁業関係法令違反の検挙・指導及び未然防止のための啓発を実施することで、県下海域の漁業秩序を維持してまいります。

【付託案件】

続きまして、ご審議いただきます案件等について、ご説明申し上げます。

まず最初に、和歌山県議会議案１ページをご覧ください。

議案第146号、「令和７年度和歌山県一般会計補正予算」、「第１表　歳入歳出予算の補正」、（歳出）第６款「農林水産業費」で、１億4,330万２千円のうち、農林水産部所管分として、１億4,058万７千円の増額をお願いしております。

これは、職員の給与改正等に伴い、農林水産部関係各課の職員費１億3,119万７千円及び会計年度任用職員の人件費939万円をそれぞれ増額するものです。

次に、議案５ページをご覧ください。「第２表　繰越明許費」では、第６款「農林水産業費」、第４項「林業費」の林道整備事業で、繰越をお願いしております。

続きまして、追加議案１ページをご覧ください。

議案第177号、「令和７年度和歌山県一般会計補正予算」、「第１表　歳入歳出予算の補正」、（歳出）第６款「農林水産業費」で、

51億7,666万６千円のうち、農林水産部所管分として、

38億1,573万6千円の増額をお願いしております。これは、
国の経済対策等に係る補正予算を活用するため、追加の補正予算をお願いするものです。

内容につきましては、補正予算説明書（追加）に基づき、ご説明いたします。補正予算説明書「出」5ページをご覧ください。
第6款「農林水産業費」、第3項「農地費」、第2目「土地改良費」では、農地の区画整理等に要する経費として、11億9,449万5千円を、また、第3目「農地防災事業費」では、老朽化したため池の改修等に要する経費として、17億9,124万円をそれぞれ増額するものです。

また、「出」6ページをご覧ください。
第4項「林業費」では、高性能林業機械の導入、搬出間伐等の森林整備、木材生産量の増大・安定供給を図るための林道の整備、荒廃山地の復旧等を推進するために要する経費として、第1目「林業総務費」では、1,730万円、第3目「林業構造改善対策費」では2,850万円、第6目「造林費」では4億1,723万5千円、第7目「林道費」では3,889万6千円、第8目「治山費」では3億2,807万円を、それぞれ増額するものです。

次に、追加議案4ページをご覧ください。「第2表　繰越明許費の補正　1追加」では、第6款「農林水産業費」、第3項「農地費」の7事業及び第4項「林業費」の7事業で、それぞれ繰越をお願いしております。
また、追加議案6ページ、「2変更」では、第6款「農林水産業費」、第4項「林業費」の林道整備事業で、繰越をお願いしております。

次に、追加議案7ページをご覧ください。「第3表　債務負担行為の補正　1追加」では、事項1「令和7年度林道整備（峠上二澤線（とうげかみにさわせん））」他4件をお願いしております。

次に、追加議案 13 ページをご覧ください。議案第 179 号、「令和７年度建設事業施行に伴う市町村負担金について」ですが、農林水産部関係では、「県営畑地帯総合整備」等の公共事業の実施に伴い、地元市町から事業費の一部の負担を求めるものです。

以上が今期定例会に提案しております議案の概要になります。よろしくご審議いただきますようお願いを申し上げます。